

製紙産業技術遺産保存・発信活動:その意義と活動状況 Project for Preserving and Publicizing Technical Archives of the Paper Industry

¹飯田 清昭、²豊福 邦隆

¹IIDA Kiyooki, ²TOYOFUKU Kunitaka

¹紙パルプ技術協会製紙産業技術遺産保存・発信プロジェクト、²紙パルプ技術協会専務理事

¹Japan Technical Association of the Pulp and Paper Industry, ²Executive Director Japan TAPPI

製紙産業 技術遺産 保存 発信 紙パルプ技術協会

Paper industry Technical archives Preservation Publicizing Japan TAPPI

製紙産業では、紙パルプ技術協会が中心となり、製紙産業技術遺産保存・発信活動を進めている。まず、2001 年 2 月に、製紙会社、紙代理店、設備メーカー、薬品会社、大学からなるプロジェクトチームを編成してその基本方針を立案した。それを受け 2001 年 12 月より具体的な活動に入った。その内容を以下に紹介する。

1. 目的及び目標

活動目標は次の通りである。特に 2. 項にその意義をおく。

1. 製紙産業技術の発展に関する資料を収集・保存し、その体系化をはかる。
2. 保存・収集した資料を情報として発信し、次世代の技術発展に寄与する。

2. 技術遺産の対象領域

1. 対象分野：日本国内で、製紙会社分野、流通分野及び設備・資材分野
2. 対象時代：1945 年から 1990 年までを目処とする
3. 対象資料：(例えば以下のもの) * 技術の記録(文字、写真、映像、電子媒体)：製紙会社における記録(操業、図面等) 報告(研究、技術、調査) 聞き書き、出版物(社史、企業情報、ニュース記事) * 製品見本：紙製品、見本帳、補助資材 * 設備：実物、模型、図面、写真

3. アンケートによる技術遺産存在調査と技術・ニュースデータベースの作成

製紙会社分野、流通分野及び設備・資材分野においてアンケートにより技術遺産の保存状況を調査し、その結果を技術・ニュースデータベースとした。このデータベースは、技術年表、技術遺産所在台帳、ニュース年表及び関連文献目録からなる。その各々につき概略を紹介する。

1. 技術年表：設備・資材関連会社に何年にどのような技術(内容を 2-4 行で)を紙パルプ産業に提供したかを申告してもらい、年表としてまとめた。33 社よ

り 823 件の提供があった。できるかぎり多く申告するよう依頼したため、申告の基準は各社により差があるのはいたしかたない。また、その分野での主力会社でありながら申告のないところもあり、引き続き充実をはかっていく。これらの技術の客観的な重要性の指標として、117 件を重要技術として選択した。これについては、4. 重要技術の選択とその詳細でふれる。

2. 技術遺産所在台帳：製紙会社(各工場)にどのような技術遺産が保存されているかを分野別に申告してもらった。約 60 工場より 1600 件余りの申告があった。この作業の中で特徴的なことを以下にまとめる。

* 紙製品の見本が、少数の工場を除いてほとんど保存されていない。品質管理用の見本も短い期間で廃棄される場合がほとんどであった。今後、その保存に注力すべきである。

* 製紙工場は歴史の長いところが多いが、その中で操業以来の図面、ある種の操業記録等が保存されている場合がある。これらは貴重な技術資料で引き続き保存すべきものである。

* 研究報告書、技術報告書はよく保存管理されている。必要に応じて公開されるならば貴重な資料となる。

* 設備の実物の保存はほとんど不可能である。

これらの技術遺産の保存については、5. 技術遺産の保存システムでふれる。

3. ニュース年表：紙パ技協誌(紙パルプ技術協会の機関紙)の国内ニュース欄より収録。1949 年より 1988 年までのニュースを分野別に編集。収録件数約 2300 件。年代によりニュースの集まる分野が変化していくが、産業の変遷を物語っている。

4. 関連文献目録：紙パ技協誌 創刊号(1947 年)以降の目次を収録

これらのデータベースを紙パ技協誌に掲載するとともに紙パルプ技術協会ホームページ

(www.japantappi.org) にて公開している。

4．重要技術の選択とその詳細

技術年表では数行の内容紹介なので、その中から特に大きな影響を与えた技術 117 件を選択し(選考者約 50 名)、各技術につき A4 3-5 ページの詳細をまとめている。現在約 60 件がまとまっており、そのうち公開する予定である。これらは貴重な技術資料遺産となろう。

5．技術遺産の保存システム

上記の技術遺産所在台帳に登録されたものにつき、保存システムを立ち上げつつある。その要点は以下の通り。

1. 技術遺産所在台帳記載のものは基本的に所有の事業所にて保存・管理をお願いする。
2. その中で特に重要なものにつき、重要保存及びモデル重要保存として継続保存に留意してもらう。重要保存とは文字通りその物件を指定する。モデル重要保存とはその分野の典型的な資料群としてその保存を依頼する。例えば、図面を長年にわたって継続的に保存している事業所には、その中の特定の図面の保存を依頼するのではなく、全体を技術の発展を示す資料群として引き続き保存を依頼する。
3. 各事業所に担当窓口を登録してもらい、紙パルプ技術協会との連絡を通して保存システムの円滑な運営をはかる。重要保存、モデル重要保存については標識によりその重要性を明確にする。

現在、約 60 工場に依頼し、システムを軌道に乗せつつある。

6．系統化

系統化とは、ある特定の技術テーマについて、その歴史・発展を技術史の視点でまとめることを意味する。この作業により、技術遺産の本来の目的が達成される。現在 2 つのシリーズを進めている。一つは、「製紙産業技術 30 年の変遷」と題する講演会を毎年開催し、その内容を小冊子(A4 約 40 ページ)にまとめ会員に配布している。現在まで「プレスパート」、「ドライヤーパート」、「サイズプレス・リール・ワインダー」、「塗工及び仕上げ」の 4 冊を発刊した。二つ目は、「製紙産業に大きな影響を与えた技術」を毎年 2 件ずつ選択し、その概要を発信している(現在まで 6 件)。

さらに新たな分類による系統化を検討しているところである。

7．発信

産業技術遺産の保存は、それを次世代の技術発展

に働きかけることを目的としている。それはあくまで、結論を提示するのではなく、資料として提供し、次世代に考えてもらうためのものである。したがって、誰もが利用できる事を前提とし、次の手段を取り上げている。

1. デジタル化して紙パルプ技術協会のホームページ等を利用して公開・発信する。
2. 印刷物として公開・発信する。基本的には会員への無料配布とする。
3. 紙パルプ技術協会の年次大会にて展示ブースを設け、発信活動を進めている。

これらの活動は紙パルプ技術協会の費用とボランティアでまかなわれている。それが、どの程度受け入れられ、効果を上げているか知る必要があるが、評価がなかなか困難である。一つのデータとして、「製紙産業技術 30 年の変遷」の最初の小冊子について行ったアンケート(2004 年)が参考となる。そこでは、回答者のほとんどが企画を評価し(高く評価: 58%、まあまあである: 41%)、70%が次世代に読ませたとの意見であった。これはこのシリーズを続ける大きな励みとなった。また、「技術遺産」のキーワードで Yahoo 及び Google で検索すると製紙産業技術遺産保存・発信データベースは 1-3 番目に出てくる。これも非常にうれしい結果で、地道な努力が評価されているのであろう。

8．今後の展開

計画と現状を下図にまとめる。今後の課題は、画像特に動画の保存である。例えば、各工場は紹介用のビデオを持っており、さらに、最近の技術講演では動画が利用される。これらの取り扱いには別のコンセプトで検討する必要がある。

活動の目的は、技術遺産の保存・発信を通して次世代の技術者を刺激し、産業の技術開発力を高めることにある。ぜひ、今後ともご協力をお願いする。

